

# 川口建設株式会社

ものづくり技術

成長分野型(環境・エネルギー)

## 森林保護と間伐材利用 積極的な投資で仕事を創り出す

### 事業内容 官公庁工事が事業の軸 新事業に積極的に挑戦

1951年(昭和26年)に土木工事業を目的に創業、田辺市龍神村の立地を活かして、高品質な紀州木材(杉・檜)の販売と龍神村周辺の公共工事を中心に事業を展開してきた。

しかし、現在は日本建築家屋の減少に歯止めがかからず、紀州木材の販売数量はかなり少なくなり、官公庁が発注する公共工事が売上の大半を占めている。主な公共工事としては、山崩れを防止するための土木工事、橋の補修などが多い。最近では、2011年9月に発生した「紀伊半島大水害」に伴う復旧工事の受注が多かった。

公共工事が売上の大半を占める状況だが、同社には失敗を恐れず新事業に果敢に挑戦していく企業風土が醸成されている。10年ほど前には周辺の同業者よりもいち早く紀州木材を使った不燃・準不燃処理天然木の販売を手掛けた。また、現在は間伐材を利用した新規事業を立ち上げており、受身の姿勢では受注は得られないと、積極的な販売を仕掛けている。

官公庁の公共工事業という柱に加え、間伐材を利用した新規事業を2番目の企業収益の柱として育てている。

### 補助事業 間伐材を活用した新製品の開発 各製造工程への設備投資

2009年(平成21年)、民主党政権となつてからは全国的に公共工事が減少し、本社を置く龍神村周辺も例外ではなかった。それまでの売上を公共工事に依存してきた会社にとって、仕事がなく苦しい事業展開を強いられる時期があった。この時、公共工事を“待つ”のではなく、森林資源を活用した商品を自社から売り込む必要があると強く感じた。

森林に目を向けると、代表の川口明久氏が子どもの頃に見た山とは違う、暗い山がそこにあった。木が大きく育っても木材として売れるとは限らないため、間伐処理が行われず放置されていたのだ。間伐などの手入れをしなければ木は深く根を張ることができず、雨が降った際には山崩れの原因ともなる。山が崩れてしまう損失に加え、結果的に川の水、海の水も汚れることになる。この悪循環を断ち切るためには、間伐材が売れる仕組みを構築していくことが必要



▲乾燥設備

不可欠であった。

そこで、今回の補助事業では、間伐材を活用した新製品の開発を進め、開発したものを効率的かつ安定的に生産できる設備を導入した。具体的には、間伐材を乾燥させる工程、間伐材を砕く混合工程、成形品を袋詰めする計量工程、それぞれに設備機器を導入した。

### 川口建設 株式会社

代表取締役 川口 明久  
〒645-0303 田辺市龍神村小家1013-3  
TEL: 0739-77-0224 FAX: 0739-77-0665  
URL: http://nekotoire.bsj.jp

(業種)土木工事業  
(創業)1951年10月  
(資本金)20,000千円  
(従業員)15人

### 成果

## 「ペレット」「ウッドチップ」の製造を開始 大口の受注獲得にも成功

間伐材を活用して3つの製品を開発した。1つ目は、高速道路等で油漏れの事故が起こった際に撒かれる「ウッドチップ」。現行使用されている珪藻土(砂)に代わるものとして、吸油性の観点からアピールしたが、今のところ出荷数量はまだ少ない。

2つ目は、ストーブの燃料として使用できる「燃料ペレット」。多くの量を販売できるまでには至っていないが地元の小学校のストーブ燃料として使用されているほか、遠方から買い付けに来てくれる顧客がいる。

3つ目は、猫用トイレ砂の代替品として開発された「猫用トイレペレット」である。2年もの歳月をかけて温度調整、水分量の調整等の最適化をはかることでようやく完成にこぎつけることができた。

現在、販売に最も力を入れているのが猫用トイレペレットで、展示会への出展も積極的に行っている。動物愛護団

体への納品が進んでおり、品質面への評価は上々だ。また、近時においてはイオングループのペット関連企業であるイオンペットから大口の受注を獲得しており、第1弾として2016年8月に1800袋ほど納品するなど、ここに来て大きな成果があがっている。



▲工場

### 今後の展開

## 猫用トイレペレットの販売に注力 間伐材を使う自然にも優しい品であることをアピール

今後については、販売が好調である猫用トイレペレットの販売に力を入れていく。同製品の大手企業への納入が始まったものの、手放しで喜ぶことはできない。なぜなら、他社の同種の製品は廃材を使っている場合が多く、安く販売することができるが、同社の製品は人手を使って間伐材を採ってきているため、価格勝負になると不利だと分かっているからだ。

それだけに「間伐材を使用した同社の製品を購入することが森林を守り、山も川も海も守ることにつながる」という

ことを一般消費者にアピールしていきたいとしている。さらに、まだ同社の猫用トイレペレットを使ったことがない動物保護団体への普及を通して、少しずつ市場シェアの拡大を目指していく。

森林を守ることと企業として利益を出すことはトレードオフ(二律背反)の関係にあると見られがちであるが、採算ベースに早い段階で達し、子どもの頃に見た山の姿を取り戻していきたいと、川口氏は意欲をみせる。



▲森のねこトイレ



▲森のねこトイレくずれるタイプ